「地域と共にある学校づくり」実践紹介だより 第３７号

連携・協働の力・タ・チ

令和３年４月７日発行　福島県教育庁会津教育事務所

”対話の風土を創る„ コミュニティ・スクール

＝地域と学校をつなぐ「磐梯の教育運営協議会」＝

【磐梯の教育運営協議会】

文部科学省では、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール」と学校と地域が相互にパートナーとして行う「地域学校協働活動」の一体的な推進を目指しています。

幼小中一貫教育を進める磐梯町では、平成３０年度から町で一つの学校運営協議会（コミュニティ・スクール）「磐梯の教育運営協議会」を立ち上げ、地域と学校が連携した教育を実践しています。

■□地域と学校が「熟議」重ねながら、教育活動を展開□■

「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」を一体的に進めるためには、**まず関係者で目標やビジョンを共有することが重要で、「コミュニティ・スクール」の協議や熟議(※)がその役割を果たします。**その結果を踏まえ、幅広い地域住民等が参画することにより、教育活動や地域学校協働活動の充実や活性化につながります。

※「熟議」とは ・・・ 多くの当事者が「熟慮」と「議論」によって問題の解決を目指す対話のこと。様々な立場の関係者が一つのテーブルにつくことで、新しいアイディアや考えが生まれます。

磐梯町の「磐梯の教育運営協議会」では、「運営協議会ができる学校支援」という大きなテーマのもと、さらに具体的なテーマを設けて、グループ協議（熟議）を行っています。令和２年 12 月 17 日（木）に行われた熟議の様子を紹介します。

Ａグループ 町全体で取り組むあいさつ運動について

Ｂグループ 地域と学校の協働活動について

Ｃグループ 持続可能な部活動の協力体制について

【テーマ別に話し合うグループ協議（熟議）の様子】

磐梯町教育委員会
堀金佳世さんのお話

小さな町のよさを生かして、地域と学校が協働して活動する仕組みをつくっていきたいですね。それが子どもたちの成長につながると思うのです。

「磐梯の教育運営協議会」では、14名の委員さんが幼稚園、小・中学校全ての学校運営に関わっています。委員の皆さんに、積極的に考えを出していただくため、会議では内容を焦点化し、小グループでの話合いをしています。

夏休みに開催した町教育研究会の勉強会には、委員の皆さんにも参加してもらい、磐梯の教育について理解を深めていただきました。連携を強くする第一歩になったと思います。

また、運営協議会の様子を町の広報紙で紹介し、町民の皆さんにも知ってもらうようにしています。

これからも連携の仲介役として頑張ってまいります。

磐梯町では、コミュニティ・スクールを活用して〝対話の風土〟を築いています。このように、地域住民と学校関係者が目標や課題を共有し、よりよい学校づくりについて意見を交わし合う場を意図的・計画的に設けることにより、「地域と共にある学校づくり」が持続可能なものとなります。

コミュニティ・スクール活用 4つのポイント！

POINT 1 「熟議」、そして〝できるところから〟「協働」へ

「熟議」で共有したビジョンや目標、方策等を踏まえて、地域と学校が力を合わせて取り組みます。「熟議」で出た意見やアイディアは、全てがすぐに実行できるわけではありませんが、〝できるところから〟「協働」を始めることで、徐々に多くの人が関わる協働体制が構築されていきます。

POINT 2 〝学校の困り感〟を熟議のテーマにする

「コロナ禍の運動会を充実させるために」、「先生方が子どもと向き合う時間をどう確保するか」など、学校が抱えている課題、いわゆる困り感を「熟議」のテーマとすることで、地域の力を活用して、よりよい学校教育へ改善・充実を図っていくことが可能となります。

POINT 3 「協働」の中核となる学校の「マネジメント」力を強化する

「協働」の中核となる学校は、校長先生のリーダーシップのもと、教職員全体がチームとして力を発揮できるよう学校と保護者、地域住民等を有機的に結び付け、共通の目標に向かって動き出す力や地域との関係を構築し、地域人材や資源を生かした学校運営を行っていくといった、学校内に協働の文化を創り出す組織としての「マネジメント」力を強化する必要があります。

POINT 4 〝小さな成功体験〟を積み重ねることで「協働」の輪を広げる

「熟議」で出された意見やアイディアについて、実現性・実効性の視点から取組の具体化を検討し、できるところから実行に移していくことがとても大切です。地域と学校が手を携えて「協働」（アクションの共有）し、目標が達成できたり、課題が改善できたりといった〝小さな成功体験〟を積み重ねていくことで当事者意識が高まり、「協働」の輪が広がっていきます。